

1050 | 情報システム基礎 II

4 単位（通信授業 2 単位・面接授業 2 単位）

清水恒平准教授、植木基博講師

授業の概要と目標

情報システム基礎 I では、ユーザーの入力に対するアウトプットの方法を様々な学んできました。マウスやキーボードからの入力は、なんらかのアルゴリズムによって別の形でアウトプットされます。他方、現実の情報システムでは、蓄積されたデータを別の形へと加工しアウトプットすることも多々あります。情報システム基礎 II では、実際のデータを利用して、データを情報へと変換し表現することを学んでいきます。

面接授業では、あらかじめ用意したデータを利用し、データベース管理システムによる抽出と、Processing によるビジュアライゼーションの手法を学びます。通信授業では、インターネット上で入手出来るデータにどのようなものがあるかを調査し、その調査結果から得られたデータを利用して、情報表現を試みます。

課題の概要

○通信授業課題 1

オープンデータ、API によるデータの取得方法の調査

○面接授業課題

データベース (SQLite) を利用したビジュアライゼーション

●OLP オンラインプラス [中間] —BBS 上での中間アドバイス

Web キャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作中の課題に対して中間アドバイスをを行う

○通信授業課題 2

外部データを利用した情報表現

授業計画

通信授業課題 1 は面接授業の前に取り組むことが望ましい。

成績評価の方法

面接授業及び通信授業の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2 年次

[履修条件] 「情報システム基礎 I」の単位を修得しているか、同時に履修すること。同時に履修する場合は「情報システム基礎 I」のスクーリングを先に受講すること。

[備 考] デザイン情報学科デザインシステムコース指定科目。

デザインシステムコース進学希望者は、2 年次に履修すること。デザインシステムコース 3 年次編入学生は必修ではないが、履修することが望ましい。

受講するにあたり、「コンピュータ基礎 I」の修得に相当するスキル、情報検索や電子メールが利用可能なインターネット環境を有すること。

「情報システム基礎 I」を同時に履修する場合は、「情報システム基礎 I」のスクーリングを先に受講すること。

スクーリングでは OS: Macintosh のコンピュータを使用する。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある（デザインシステムコース進学希望者を除く）。

PDF 形式で保存可能なレイアウトソフトまたはワープロソフトなどのソフトウェアと、それを利用できるコンピュータを所有するか、もしくは利用できること。

面接授業の前半では Processing を使用する予定。Processing は「情報システム基礎 I」で学ぶ。授業ではプログラミングの基礎的なレクチャーは行わないので、不安な人は事前に Processing を予習／復習して、基礎的な内容を習得しておくこと。

公式サイト (<http://processing.org/>) やプログラミング学習サイト「ドットインストール」(http://dotinstall.com/lessons/basic_processing) などをお勧めする。

教材等

教科書：Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』

(オライリージャパン 2011 年)

学習指導書：『情報システム基礎 I・II 平成 29 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）

その他

参考文献：Casy Reas, Ben Fry 著、中西泰人監修

『Processing: ビジュアルデザイナーとアーティストのための Processing 入門』

(ビー・エヌ・エヌ新社 2015 年)